

# 複数の医療機関で 医用画像も含めて診療情報を共有 地域医療連携の高度化を目指す



## 一般社団法人 阿波あいネット 様

徳島県全域に対して医療情報連携サービスを提供する阿波あいネット。従来、複数の医療機関で共有していた病名や検査結果、処置内容、薬の処方内容、レセプト情報などだけでなく、有用なレントゲンやCT、MRI検査などの医用画像も共有できるよう、クラウドを使った機能拡張を行いました。クラウドの設計から開発、運用を担っているのはキヤノンITソリューションズです。医療におけるクラウド活用には、厳しいガイドラインが設けられていますが、キヤノンITソリューションズのノウハウによって、それもクリアしました。

お客様の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療情報ネットワークに医用画像を共有できる機能を追加したい</li> </ul>
導入の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほかの医療機関が保有するカルテ情報に加え医用画像の共有も可能に</li> <li>診療のスピードアップと効率化により、患者の負担軽減にもつながる</li> <li>国のガイドラインに準拠したセキュアなシステムを開発</li> </ul>

導入ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療ITクラウドサービス</li> </ul>
キヤノンITソリューションズを選じた理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドライン準拠の支援にかかわる豊富な実績</li> <li>設計から開発、運用までをトータルに支援できる</li> </ul>

### 背景・課題

#### 医用画像を共有して 地域医療連携の質を高めたい

超高齢化社会を迎える日本にとって医療を量と質の両面から強化していくことは重要な社会課題です。その実現には様々なアプローチが考えられますが、徳島県が推進している取り組みの1つが地域医療連携の高度化です。

具体的には県内の多数の医療機関をネットワークで結び、患者の医療情報を共有。患者が、どのような症状で、いつ、どの施設で診療を受けても、過去の診療履歴や同時に抱えているほかの疾患をスムーズに把握し、迅速かつ適切な診療を行える体制を実現しようとしています。

その中心的な役割を担っているのが一般社団法人である阿波あいネットです。

「患者さんが阿波あいネットに登録すれば、阿波あいネットに参加している医療機関間で電子カルテに

記録されている病名や検査結果、処置内容、薬の処方内容、レセプト情報などを相互に参照できるようになっています。患者さんの訴える症状の原因が原疾患にあるかもしれない——。患者の説明だけでは症状が把握できない——。たとえば、こうした場合、医師は他施設の医師が記録した豊富かつ多面的な情報を参照して、できるだけ適切な診断をくださることができます」と阿波あいネットの永廣 信治氏は言います。

この情報共有の質を高めるために阿波あいネットが取り組んだのが共有する情報の拡大です。これまで医用画像の表示までに時間がかかったり、導入ベンダーが異なる施設間での画像連携ができていないという課題がありました。

「文字の情報だけでなく有用なレントゲンやCT、MRI検査など、PACS(医用画像管理システム)で管理している医用画像も共有できれば、より正確に症状を把握することができる。医師から医用画像も共有したいという要請が増えてきました」と阿波あいネットの野村 友美氏は語ります。



阿波あいネット

#### 法人名

一般社団法人 阿波あいネット

#### 所在地

徳島県徳島市蔵本町2-50-1(徳島大学病院内)

#### Webサイト

<https://awainet.com/>

#### 事業内容

徳島県内の医療機関をネットワークで結び、住民、患者の医療介護情報のうち病名や検査結果、薬の内容、処置内容などのカルテ情報などを電子的に保存して共有化を図るためのサービスを提供。地域の医療連携を支えている。



医療法人 修誠会 理事長  
吉野川病院 病院長 敬愛の家 施設長  
一般社団法人 阿波あいネット 理事長 医学博士  
永廣 信治氏



徳島大学 先端酵素学研究所  
糖尿病臨床・研究開発センター センター長 教授  
一般社団法人 阿波あいネット 副理事長  
松久 宗英氏



一般社団法人 阿波あいネット  
監事  
野村 友美氏

“医療の高度化を図るには信頼できるITパートナーの存在が不可欠”

医療法人 修誠会 理事長 吉野川病院 病院長 敬愛の家 施設長 一般社団法人 阿波あいネット 理事長 医学博士 永廣 信治氏

解決策

ガイドラインに準拠した開発を行える数少ないベンダー

医用画像も共有するために阿波あいネットは、新しいシステムを構築することにしました。「医用画像はデータ容量が大きいので、レスポンス性や保管容量の大きいシステムが必要になります。そこでクラウドを通じて共有するシステムを構築することにしました。クラウドなら、最初に大量のストレージを用意せずとも、従量課金で利用しながら、徐々に拡張していけることもメリットだと考えました」と野村氏は言います。

このクラウドを用いたシステムの設計と構築、そして運用を担っているのがキャノンITソリューションズです。

「クラウドを医療に利用する際には、厚生労働省、経済産業省、総務省が作成した『3省2ガイドライン』を遵守しなければなりません。私たちが知る限りガイドラインに精通し、それに準じたシステム開発を行えるベンダーは、ほとんどありません。キャノンITソリューションズは、その数少ないベンダーの1社。既に豊富な実績もある上、設計やシステム開発だけでなく運用までを任せることができま

成果

診療の高度化だけでなく検査費用の負担軽減にもつながる

クラウドにはアマゾン ウェブ サービス(以下、AWS)を選定した阿波あいネットの医用画像共有基盤は、既に稼働を開始しており、患者や医療機関

から高い評価をもって迎えられています。

「ほかの医療機関で撮影した医用画像も含めて患者さんの状況を把握し、診療に当たることができる。カルテ情報に加えて医用画像も速やかに参照できるようになったことは非常に画期的なことです。救急搬送の際も、受け入れ先に病院で事前に診療情報や医用画像を確認しておき、患者さんが到着したら速やかに適切な

診療を行うことができるようになったという話も聞いています」と徳島大学の松久 宗英氏と言います。

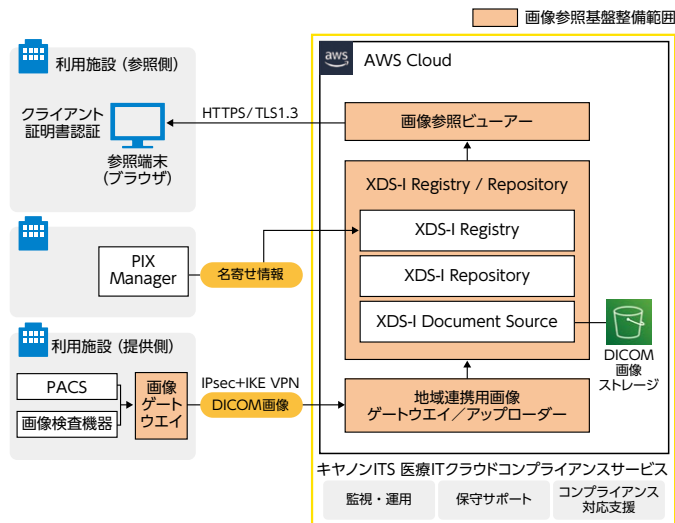
以前はほかの医療機関で撮影した医用画像の入手に手間と時間がかかることから、複数の医療機関で全く同じ検査を繰り返し行うということも頻りにありましたが、この医用画像を共有するシステムがあれば、同じ検査を何度も行う必要はありません。「このことが診療のスピード化や効率化につながります。」と松久氏は続けます。

今後の展望

より多くの施設と患者へ情報共有の規模拡大を目指す

このように阿波あいネットは、キャノンITソリューションズと共に機能強化に取り組み、医用画像までを共有できるようになりました。

阿波あいネットの医用画像共有基盤



「メリットを伝えながら、もっと多くの医療機関や患者さんに阿波あいネットに参加していただけるよう働きかけを行っていきます。歯科医や介護施設などにも情報共有の範囲を拡大できれば、患者さんに対して、より幅広い支援を行うことが可能になると考えています」と永廣氏は話します。

医用画像共有基盤の開発において大きな課題となった3省2ガイドラインへの準拠の主な目的はセキュリティですが、セキュリティ強化は今後も阿波あいネットの継続的な課題となります。

「安全・安心は、医療情報を共有する上での大前提。より多くの患者や医療機関の参加を促す上で欠かせません。その面でもキャノンITソリューションズの豊かな経験とアドバイスに期待しています」と永廣氏。阿波あいネットは、キャノンITソリューションズとのパートナーシップを強化しながら、徳島県の医療の向上に取り組んでいく構えです。



デジタルビジネス統括本部  
デジタルソリューション開発本部  
クラウドサービス推進部  
シニアITアーキテクト  
難波 俊嗣



デジタルビジネス統括本部  
デジタルビジネス営業本部  
デジタルビジネス営業部  
デジタルビジネス営業課  
倉橋 翔大

キャノンITソリューションズ担当者からの声

パブリッククラウドを活用するための各種ガイドラインに準拠した安全・安心なシステムを開発し、医療に効率化やデジタル化などの価値を提供するのがキャノンITソリューションズの「医療ITクラウドサービス」です。阿波あいネット様には、設計から開発、そして、継続的な運用支援を提供しています。今後も多くの医療機関様や患者様が安心して情報共有を行えるような基盤を提供していきます。



製品情報 Web サイト

医療ITクラウドサービス  
<https://www.canon-its.co.jp/solution/healthcare/>



お気軽にお問い合わせください

[healthcare-it@canon-its.co.jp](mailto:healthcare-it@canon-its.co.jp)